

## 「飯山市の未来」を考える 城南・城北中学校の総合学習の取り組み

城南中学校及び城北中学校では、それぞれ「飯山市の未来」を考え、魅力ある飯山にするための学習を総合学習で行っています。

### ●城南中学校の取り組み

城南中学校は、生徒自身が飯山市に住んで感じている『実感』と、資料を基にみえる客観的な飯山市の『現状と課題』を知ること、地域と密接に結びついて学ぶ「総合的な学習の時間」に取り組んでいます。

地域の未来を考える活動では「城南まちづくり協議会」と題し、いつまでも飯山市が



まちづくりについて、ゲストティーチャーと質疑を交わす城南中学校生徒（城南中学校にて）。



城北中学校は飯山市役所を訪れ、関係する部署の職員と質疑を交わしました。

活動の最後には、提言を「意見書」としてまとめ、飯山市へ提出することを目標としています。

### ●城北中学校の取り組み

城北中学校は3学年が「飯山市の未来」を考える学習を行っています。これまでの生徒自身の生活経験を基に、飯山市の『良さ』や『課題』から、どんな町になってほしいのか、という理想を考えました。

自然が豊か、移住者が多い等の良さがある一方で、人口減少を食い止めたい、もっと商業施設を増やして街の活性化

### 城北中学校からアンケートのお願い

城北中学校の「人口」について学習しているグループでは、調査のために市民の皆さんにオンラインのアンケートへのご協力をお願いしたいと考えています。



こちらのQRコードからアンケートにご協力いただくようお願いします。

化を図りたい等の、市に対する理想が生まれました。

そこで、飯山市の現実と理想とを埋めていくために必要な取り組みは何なのか、似たような課題意識をもつ生徒同士で「人口」「自然環境」「商

## 19年にわたり放課後の地域の児童を受け入れ 常盤小放課後児童クラブの滝沢さんに感謝状

7月14日、長年にわたり、常盤小学校の放課後児童クラブの運営に携わっていただいた滝沢保夫さん（常盤地区）に感謝状を贈呈しました。

滝沢さんは、小学校下校後や長期休みなどに、保護者が就労等のため家庭にいない子どもを受け入れる「常盤のびのび自遊館」を平成15年5月に自宅の一部を提供し開設。以後、令和4年3月まで、自らも厚生員として献身的に関わりながら、子どもの「遊び」や「生活」の活動拠点を提供していただきました。

感謝状を手渡した足立市長からは「19年間の長きにわたり地域に根ざした教育の一端を担っていただいたことに感



写真右から松本教育長、表彰を受けた滝沢さん、足立市長、新家副市長

## 4年ぶりの大会は長峰周回コースで実施 第49回 飯山市駅伝大会

10月10日（月・祝）開催  
（長峰運動公園内周回コース）



長峰運動公園をスタート・ゴールとするのは平成19年以来

平成30年以来、4年ぶりとなる第49回飯山市駅伝大会を10月10日（月・祝）に開催します。

この3年間は台風と新型コロナウイルス感染症の影響により本大会を開催できなかったことから、今大会は感染防止対策を講じられるよう、また、人口減少によって

選手、役員が従来のように参加できにくい地区に配慮するため、コースをコンパクトにした長峰運動公園内を回る

コースに設定。チーム構成を変更し、1チーム12名、22.8キロでたすきをつなぎます。大会は新型コロナウイルス

感染防止対策を行いつながりながら運営しますが、感染拡大状況によつて大会が中止なる場合もありますので、ご了承ください。

### お問い合わせ

スポーツ推進室スポーツ推進係  
☎6710746

### 各区間の注目ポイント （コース及び距離は若干変更となる場合があります）

#### ○第1区（1.6キロ）小学生高学年区間

各チーム、流れを作ることができるか。

#### ○第2区（1.0キロ）小学生低学年区間

新たに年齢区分を追加。一生懸命な選手たちの走りに注目。

#### ○第3区～第10区（2.2キロ）

6区が中学生以上女子、10区が中学生以上男子、その他は各年代の選手が同じコースを走ります。各チームでの走順が勝負を左右します。

#### ○第11区（1.2キロ）50歳以上区間

各チームのベテラン選手の走りでアンカーにつなぎます。

#### ○第12区（1.4キロ）小学生女子区間

アンカーは小学生女子が担当。各チーム最後の粘りを見せられるか!?ゴール前のデッドヒートに期待。



### 人権学習 シリーズ

## 誰もが輝ける社会へむけて

男女共同参画推進委員長 丸山明美

飯山市男女共同参画推進委員会主催の講演会を6月25日、コロナ禍から3年ぶりに開催できました。講師はお茶ノ水大学理事・副学長の「石井クンツ昌子」氏でした。

コロナ禍で女性の家庭での仕事量が増加していることをデータで示しながら話して頂きました。まん延防止による休園、休校は子どもにとつて、影響が大きかったこと。加えて家庭の負担が大変重く、その重さは圧倒的に女性の肩にかかる割合が多かったことなど共感できる内容でした。経験豊富でグローバルな視点に立った講師の話は若い人たちにも聞いてほしかったと思いました。しかし、参加者が少なく、私たち委員のアピール不足もあったことは否めませんがとても残念な思いです。

私たち男女共同参画推進委員会は年3回ほどの会議を開催しています。構成メンバーは女性7名、男性6名です。講演会開催などの議題検討の後、一人ひとりが所属する団体の実態や日常感じている矛盾など思いを語りまします。このトークの時間がとても貴

重で委員の意見を聞くことにより様々な気づきがあります。職場、地域活動、政治の場、農業や商業、家庭など立場、男女によっても考えや感じ方の違いがあります。「自分の考えを発言する」「参加者の発言に耳を傾ける」。このことがとても大切だと思います。参加者全員が日頃、感じていることを話せる推進委員会はとても貴重だと思っています。小さな一歩でも社会を少しずつ変えていく力になることを信じています。

現在、推進委員会には、若い委員も少なく、子どもの代表もメンバーに入っていない。様々な立場の人が集まり、自由に討論し、だれもが輝ける飯山市（社会）へ向けて共に考え、アイデアを出し、行動を起こしていける組織を目指し、発展させることが今後の課題だと考えます。最後に「いいやま男女共同参画プラン21」「第4次飯山市男女共同参画計画」の作成を無駄にせず、今を生きている自分たちのために、そして未来を生きている子どもたちのために、それぞれの立場で力を合わせていきましょう。